
第13回モニタリング会議 ご説明資料 (2017年4月～12月業績報告)

2018年3月15日



1. 計画と実績の対比	p.3
□ 全社PL	
□ 路線バスPL	
□ 軌道PL	
2. 公共交通利用状況	p.7
□ 路線バス	
□ 軌道	
3. 公共交通取組状況	p.9
4. 公共交通に関する設備投資の実施状況	p.10

計画と実績の対比（全社PL）

全社の事業再生計画 第3期(2017年4月～12月)実績は、以下のとおりです

※事業再生計画の財務数値は、「とさでん交通」と「とさでんトラベル(旅行業)」との合算

単位:百万円

	2017/4～2018/3月 12ヶ月	2017/4～6月 第1四半期	2017/7～9月 第2四半期	2017/10～12月 第3四半期	2017/4～12月 9ヶ月	進捗率 ②÷①	2016/4～12月 前年同期 実績	前年 同期比
	計画①	実績	実績	実績	実績②			
売上高	5,544	1,457	1,443	1,504	4,405	79%	4,452	99%
売上原価	577	191	154	211	556	96%	591	94%
差引収益	4,967	1,266	1,289	1,293	3,849	77%	3,861	100%
人件費	2,545	624	754	746	2,124	83%	2,062	103%
厚生費	302	86	112	93	291	96%	277	105%
動力費	529	91	103	94	288	54%	265	109%
修繕費	303	61	76	76	213	70%	229	93%
物件費	108	23	24	20	66	61%	73	90%
経費	1,010	256	251	250	757	75%	729	104%
諸税	105	19	25	17	61	58%	59	103%
減価償却費	473	120	113	129	362	76%	330	110%
営業費計	5,375	1,280	1,457	1,424	4,161	77%	4,022	103%
営業利益	-408	-14	-168	-131	-313	-	-162	-
営業外収益	56	37	25	15	77	137%	69	111%
営業外費用	70	21	14	16	51	73%	77	67%
経常利益	-422	2	-158	-132	-287	-	-170	-
特別利益	513	50	101	3	154	30%	19	-
特別損失	23	9	104	5	118	-	126	94%
税引前当期利益	68	44	-161	-134	-251	-	-277	-
法人税等	17	0	12	1	13	-	10	127%
当期純利益	52	44	-173	-135	-264	-	-287	-

計画と実績の対比（全社PL）

<事業再生計画比> ※第3四半期につき進捗率75%と比較

売上高は、計画進捗率79%。経費は、人件費・厚生費増はあるものの、軽油単価が計画比低位推移し、路線・高速・貸切バスの動力費が低減。営業利益は計画をやや下回っているが、経常利益は計画を上回る進捗。

<2017年4月～12月第3四半期の概況>

【売上高】 4,405百万円となり計画に対する進捗率79%

【売上原価】 旅行事業部門における原価率の高い商品の受注増により計画に対する進捗率96%

【差引収益】 3,849百万円となり計画に対する進捗率77%

【営業費】 人件費・厚生費が計画比で増加。軽油単価の低位推移などにより、計画に対する進捗率77%

【営業利益】 計画をやや下回る△313百万円

【営業外収益】 業務委託料・有価証券配当増などにより、年度の計画をクリア

【営業外費用】 51百万円となり計画に対する進捗率73%

【経常利益】 計画を上回る進捗であるが△287百万円

【特別利益】 工事負担金受入益、有価証券売却益を計上。一部入金はあるが、計画上補助金は年度末に計上

【特別損失】 固定資産圧縮損(工事負担金・補助金による圧縮)95百万円、事業再生関連費用(専門家費用)20百万円他

【当期純利益】 第3四半期経過時点で△264百万円の赤字計上(補助金収入の大部分は年度末に計上)

<対前年同期実績比>

- ◆ 売上高・差引収益はほぼ前年同期実績並み
- ◆ 営業費用は人件費・動力費・経費・減価償却費等を中心に増加
- ◆ 営業損益、経常損益ともに前年同期実績比で赤字拡大。当期純損益は赤字幅縮小

<経費科目説明>

動力費・・・軌道動力費・バス軽油費等　修繕費・・・軌道、バス事業における各種修繕等　物件費・・・水道光熱費・備用品等
 経費・・・賃借料・借地料・広告宣伝費・道路使用料等　諸税・・・固定資産税・自動車税等　減価償却費・・・固定資産償却・のれん代償却
 営業外収益・・・受取配当金・業務委託料等　営業外費用・・・支払利息等　特別利益・・・補助金等　特別損失・・・事業再生関連費用等

計画と実績の対比（路線バスPL）

路線バス事業の2017年4月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

単位:百万円

	2017/4～2018/3月 12ヶ月	2017/4～6月 第1四半期	2017/7～9月 第2四半期	2017/10～12月 第3四半期	2017/4～12月 9ヶ月	進捗率 ②÷①	2016/4～12月 前年同期 実績	前年 同期比
	計画①	実績	実績	実績	実績②			
売上高	1,085	266	266	254	786	72%	835	94%
売上原価						-		-
差引収益	1,085	266	266	254	786	72%	835	94%
人件費	737	194	231	223	647	88%	653	99%
厚生費	84	26	33	28	88	105%	87	101%
動力費	189	33	38	35	106	56%	97	109%
修繕費	120	27	35	28	90	75%	92	98%
物件費	29	6	7	4	17	59%	19	89%
経費	164	44	40	35	119	72%	131	91%
諸税	25	6	2	2	10	41%	10	102%
減価償却費	99	25	23	28	77	78%	62	124%
営業費計	1,446	361	409	383	1,154	80%	1,152	100%
専属営業損益	-362	-96	-143	-129	-368	-	-317	-
減価償却前専属営業損益	-263	-71	-120	-101	-291	-	-255	-

<計画差異要因等>

- ✓ 売上高
 - 2017年4月からのスクール線便数減少、10月からの安芸線移管により計画を下回る進捗
- ✓ 費用
 - 人件費: 人事制度改正による増、時間外手当増
 - 厚生費: 人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
 - 動力費: 軽油単価の計画比低位推移
 - 経費: 自動車保険料の減等
- ✓ 専属営業損益
 - 動力費の低減はあるが、収入の減、人件費の増などにより計画を下回る進捗

<前年同期差異要因等>

- ✓ 売上高
 - スクール線便数減少、安芸線移管等による減
- ✓ 費用
 - 動力費: 軽油単価の上昇による増
 - 減価償却費: 車両更新等による増

<科目計上ルール変更とは>

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費計上していたが、実績は人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

<専属営業損益とは>

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

計画と実績の対比（軌道PL）

軌道事業の2017年4月～12月実績の専属営業損益は、以下のとおりです

	2017/4～2018/3月	2017/4～6月	2017/7～9月	2017/10～12月	2017/4～12月	進捗率 ②÷①	2016/4～12月	前年 同期比
	12ヶ月 計画①	第1四半期 実績	第2四半期 実績	第3四半期 実績	9ヶ月 実績②		前年同期 実績	
売上高	1,000	261	268	261	790	79%	804	98%
売上原価						-		-
差引収益	1,000	261	268	261	790	79%	804	98%
人件費	560	143	171	175	489	87%	464	105%
厚生費	70	20	26	22	68	97%	64	107%
動力費	77	18	23	19	61	78%	57	106%
修繕費	46	8	14	20	41	89%	41	101%
物件費	22	6	6	5	17	77%	15	116%
経費	60	16	17	15	49	81%	51	95%
諸税	15	2	2	2	6	36%	5	111%
減価償却費	45	8	8	8	25	56%	32	78%
営業費計	897	222	267	267	756	84%	729	104%
専属営業損益	103	39	1	-6	34	33%	75	46%
減価償却前専属営業損益	148	48	9	2	59	40%	107	55%

単位:百万円

<計画差異要因等>

- ✓ 売上高
 - 計画を上回る進捗
- ✓ 費用
 - 人件費:人事制度改正による増、時間外手当増
 - 厚生費:人件費増・科目計上ルール変更に伴う増
 - 動力費:使用電力の単価増
 - 修繕費:車両・設備修繕の増加等
 - 経費:ですかシステム更新賃借料等による増
 - 減価償却費:車両等資産の償却減
- ✓ 専属営業損益
 - 専属営業損益は34百万円(進捗率33%)の黒字

<前年同期差異要因等>

- ✓ 売上高
 - 運送収入・運送雑収入各々微減
- ✓ 費用
 - 人件費:人事制度改正等による増、時間外手当増
 - 厚生費:人件費増による増
 - 動力費:使用電力の単価増

<科目計上ルール変更とは>

- ✓ 計画上、嘱託社員等の人件費+厚生費を全て人件費計上していたが、実績は人件費と厚生費をそれぞれに分けて計上している

<専属営業損益とは>

- ✓ 本社費配賦前の事業別営業損益

路線バスの2017年4月～12月利用状況: 運送収入は前年比94%、IC利用客数は前年比89%で推移

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

単位: 百万円

	2016/10～12月	2017/10～12月	2016/4～12月	2017/4～12月	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	9ヶ月 前年同期①	9ヶ月 実績②	
運送収入	263	247	817	766	94%
①定期全体	54	46	175	150	86%
②定期外収入	209	201	641	615	96%
うち、現金収入	112	109	344	334	97%
うち、SF	97	92	297	281	95%

<路線バス収入の増減要因>

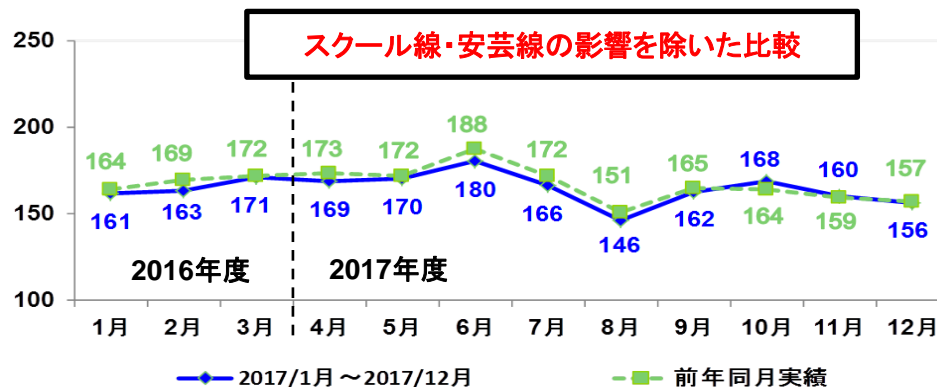
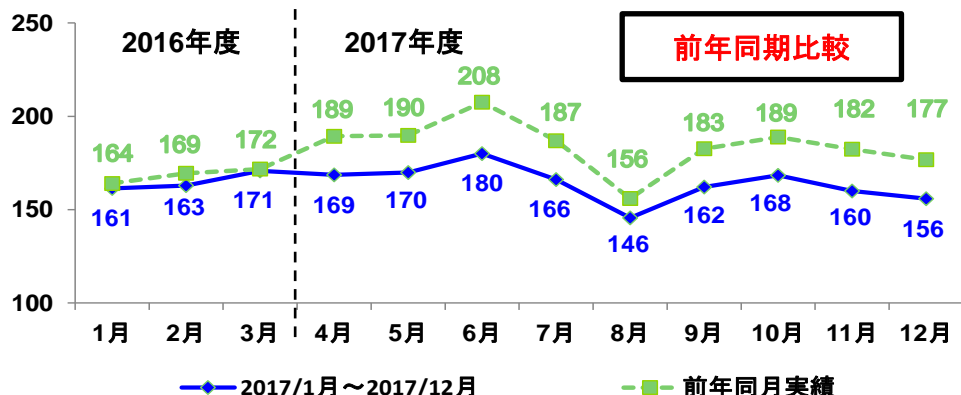
- ✓ 「ダイヤ改正による減キロ」
2016年10月1日 △3.0%
2017年 4月1日 △1.5% 10月1日 △4.8%
- ✓ 運送収入94%の要因は、2017年4月のスクール線の便数減少および10月の安芸線の移管による減少等

【運送収入】 ※スクール線は現金を除く 単位: 収入(百万円)

	H28	H29	差
スクール線	33	7	▲26
安芸線(東部交通実績)		▲8	▲8

<利用客数推移>

単位: 千人



<利用客について>

- ✓ 減少要因は、2017年4月からのスクール線便数減、10月からの安芸線の東部交通への移管が主要因
- ✓ 9か月累計のICカード利用客数は1,477千人、前年同期は1,660千人にて、約11%の減であるが、前年同月分からスクール線(前年実績差)安芸線(本年度東部交通実績)を除いた前年同期比では1,501千人であり、約98%で推移
- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約60%(利用客数による)

公共交通利用状況（軌道）

軌道の2017年4月～12月利用状況：運送収入、IC利用客数ともに前年比99%で推移

- 本表は運送収入のみ
広告収入及び、補償金等の特殊要因が含まれる「運送雑収入」は含めていない

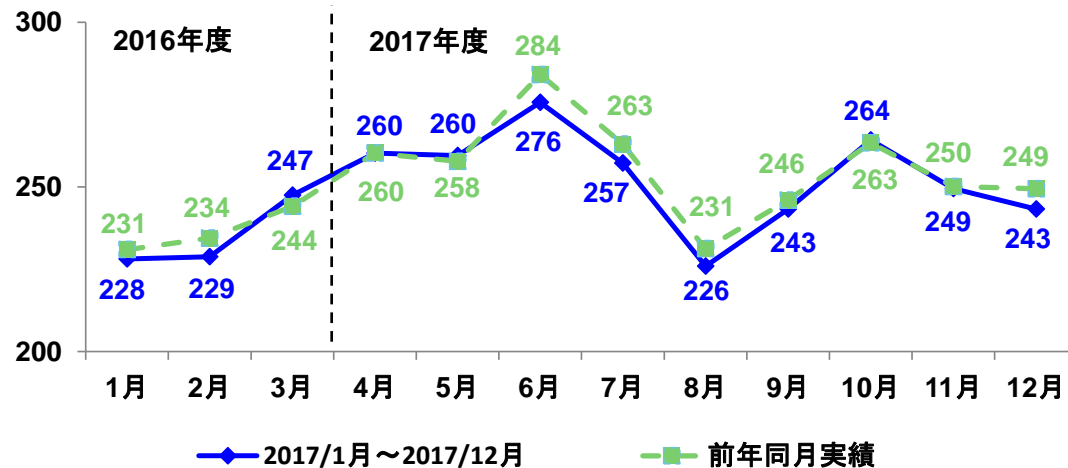
単位：百万円

	2016/10～12月	2017/10～12月	2016/4～12月	2017/4～12月	前年 同期比 ②÷①
	3ヶ月 前年同期	3ヶ月 実績	9ヶ月 前年同期①	9ヶ月 実績②	
運送収入	234	235	718	711	99%
①定期全体	62	62	193	193	100%
②定期外収入	173	173	525	518	99%
うち、現金収入	115	116	347	346	100%
うち、SF	58	57	178	172	97%

＜軌道収入の増減要因＞

- ✓ 運送収入は微減
- ✓ 「雨天日」は第1四半期累計：▲9日、第2四半期累計：+14日、第3四半期累計：+7日
- ✓ 雨天日が前年より12日多いが、台風の影響により、7月に学校休校、8月・9月・10月に部分運休あり、収入を押し下げ
一方で、志国高知幕末維新博による観光客の入り込み、各種利用促進施策の取り組み等の効果もあり、前年同期比99%で推移

＜利用客数推移＞ 単位：千人



＜利用客について＞

- ✓ 対前年同月比、4月は横ばい、5月・10月は増加、その他は減少
- ✓ 9ヵ月累計のICカード利用客数は2,279千人、前年同期2,305千人に対し、約1%の減
- ✓ 減少要因は、台風による7月の学校休校(1日)、8月・9月・10月の部分運休(各1日)の影響

- 利用客数は、ICカード「ですか」データに基づいており、現金などを除く
- IC使用率は約50%(利用客数による)

公共交通取組状況

2017年度、路線バスと軌道の取組施策は以下のとおりです (ローラー活動 延べ8回、出前授業 延べ7回実施)

内容	路線バス	軌道
■2017年4月1日～2017年12月末		
1. 「バスこっち」データを活用した運行時分の見直し 4月	○	-
2. ローラー活動(横浜ニュータウン) 4月	○	-
3. 婚活電車の運行 4月、5月、6月、11月	-	○
4. 電車の日イベント 5月	-	○
5. 高校県体応援一日乗車券の販売 5月	-	○
6. ローラー活動(鳥越・塚の原・口細山) 5月	○	-
7. 公共交通体験プログラム<電車とバスで高知をうろちよろ> 6月	○	○
8. 防災訓練 6月	○	○
9. 春・夏・冬休み! バスキッズ定期券販売開始 7月～	○	-
10. 子育て応援団～すこやか2017～ ブース出展 7月～	○	○
11. ローラー活動(横内～福井) 7月	○	-
12. バスキッズイベント 7月・8月	○	-
13. 電停への「まんが観光案内版」設置 8月	-	○
14. とさっ子タウン2017 イベント出展 8月	○	○
15. 「市商・とさでんプロジェクト」の取り組み 8月、9月	-	○
16. ですかキャンペーン実施 9月～	○	○
17. 小学生を対象とした出前授業(十津小、介良小) 9月	○	○
18. 伊野商業前電停改良による供用開始 9月	-	○
19. 交通安全ひろば ブース出展 9月	○	○
20. RKCランド ブース出展 9月	○	○

内容	路線バス	軌道
■2017年4月1日～2017年12月末		
21. 車庫見学の受け入れ(加茂小、蓮池保育園他) 9～11月 10回実施	-	○
22. ローラー活動(鏡川橋～旭町三丁目) 10月	-	○
23. 鉄道の日イベント開催 10月	-	○
24. ローラー活動(旭駅前通～上町五丁目) 11月	-	○
25. 小学生を対象とした出前授業(介良潮見台小) 12月	○	○
26. ローラー活動(福井) 12月	○	-
27. HI-SIX リレーマラソン ブース出展 12月	○	○
28. 事故訓練、総合脱線復旧訓練 12月	○	○
29. 八代通電停移設に伴う電停のバリアフリー化 12月	-	○

内容	路線バス	軌道
■2018年1月1日以降		
1. 新春初詣きっぷ 1月	○	○
2. ローラー活動(加賀野井・宇津野) 1月	○	-
3. 小学生を対象とした出前授業(潮江東小、大篠小、岡豊小) 1月	○	○
4. 車庫見学の受け入れ(杉の子せと幼稚園他) 1～2月 2回実施	-	○
5. こうち環境博2018 こどもワンダーランド ブース出展 2月	○	○
6. ローラー活動(上町五丁目～上町二丁目) 2月	-	○
7. 小学生を対象とした出前授業(三和小) 2月	○	○
8. 「土佐のおきゃく2018」ブース出展 おきゃく電車運行 3月	○	○

2017年4月～12月の公共交通に関する設備投資は、以下表のとおりです

【2017年度 設備投資計画実施内容】

単位:百万円

事業	計画			実施		備考
	投資計画総額	主な投資内容	投資計画額	投資実績額	投資目的・狙い	
路線バス	178	補助車両(5両)の購入	103	41	安全安心、利便性向上	補助車両(ノンステップバス2両)購入済み 年度末までに3両購入
		その他	75	27	安全安心、利便性向上	管理システム、バス車載器、中古車両1両購入他
軌道	322	低床車両の購入	250	0	安全安心、利便性向上	年度末までに1両購入(3/26 出発式)
		車両冷房装置(2基)	17	0	利便性向上	年度末までに2基設置
		き電線改良	11	6	安全安心	一条橋～小籠間
		ドライブレコーダー	9	8	安全安心	20両分を設置
		その他	35	13	安全安心他	車両工場の電車屋根上点検施設改良および増設他
合計	500			95		

- 軌道の車両購入(1両:250百万円)は、再生計画上2016年度の投資予定であったが、車両メーカーの製造計画の関係で2017年度へ持ち越し
- 一宮BT建替は、栈橋集約費用の一部として2016年度に50百万円を予定し、2017年度へ持ち越したが、土地売却・整備計画遅延により2018年度へ持ち越し
- 路線バス低床化率 45.2%(平成29年12月末時点)【路線バス車両数126両(空港連絡除く)、うち低床車両57両】

【事業再生計画 設備投資計画進捗状況(累計)】

単位:百万円

		計画0期 15/3半期	計画1期 16/3期	計画2期 17/3期	計画3期 18/3期	計画4期 19/3期	計画5期 20/3期	累計	
路線バス	計画	109	151	111	111	111	111	703	
	実績	146	70	120	68			404	57.5%
軌道	計画	51	139	279	197	118	37	821	
	実績	51	125	116	27			319	38.9%